



緑中だより

令和 7 年度第 6 号 令和 7 年 9 月 30 日発行

小金井市立緑中学校

小金井市緑町2-11-47 ☎042-383-1164

ホームページ

<https://midori-js.koganei.ed.jp/>



本校の教育目標

○すすんで学び、高い知性を身につけよう

◎社会の一員として、思いやりのある人になろう

○希望をもって、ねばり強くやりぬく人になろう

○からだをきたえ、健康な人になろう

ぶつかり合いの先に



副校長 佐藤淳一郎

誰かとぶつかった日のことを、ふと思い出すことがあります。あのときの言い方や表情、沈黙——。どちらが正しかったのかは、今でもわかりません。

けれど、あの経験があったからこそ、少しだけ人に優しくなれた気がします。あの痛みを知っているからこそ、同じような場面で、相手の立場を想像できるようになった。今にしてみれば、そう思えることもあります。

学校の中でも、子どもたちは日々、小さなぶつかりを経験しています。わかってほしかったのに、伝わらなかったこと。頑張ったのに、認めてもらえなかった悔しさ。ほんの一言で、関係がぎこちなくなってしまうこと。ときには、ぶつかった相手の言葉が、ずっと胸に残ることもあります。腹が立っていたはずなのに、あとから気づかされることがある。その逆もあります。何気なく言った一言が、相手にとって大きな意味を持ってしまうこともある。そうした経験は、時間をおいてから初めて「学び」になるのかもしれない。

私たちは、こうした場면을「問題」ではなく「出会い」として見つめていきたいと思っています。ぶつかるのは、それだけ本気で関わっている証です。そしてそのあと、何を感じ、どんな言葉を交わすか——そこにこそ、成長の芽があるはずです。

でも、すぐに前を向けるとは限りません。時間がかかっても、うまく言葉にできなくても、それでいいのかもしれない。痛みのかたちに正解はないし、乗り越え方も人それぞれです。

それにしても、子どもたちはすごいなと思うことがあります。昨日までぎこちなかった関係が、気づけば並んで笑っている。そんな姿を目にするたび、大人が先回りしすぎず、信じて待つことの意味を教えられる気がします。私たち大人もまた、過去の自分の不器用さに、ふと立ち止まることがあります。それはきっと、今の子どもたちの姿に、忘れかけていた自分の記憶がよみがえるからかもしれません。

おそらく、ぶつかることには意味があります。その先にある「わかり合いたい」という願いを、私たちはこれからも信じ続けていきたいと思っています。

緑中生の活躍

■ 10月の主な行事

1	水	市教研究部会
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	朝礼 安全指導 各種委員会
7	火	評議員会
8	水	
9	木	修学旅行
10	金	修学旅行
11	土	修学旅行
12	日	
13	月	スポーツの日
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	第2回進路説明会
18	土	
19	日	
20	月	生徒朝礼・安全指導
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	避難訓練
25	土	学校公開日 道徳授業地区公開講座 学校運営協議会 cosmos 相談会
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	文化発表会1日目 貼り絵発表 体育館
31	金	文化発表会2日目 舞台発表の部 たましん RISURU ホール